

はしがき

2021年度は、新型コロナウイルス感染症の影響が持続する一方で、ワクチン接種などの対策が社会に広まり、学術研究交流への規制が、徐々に緩和された年でした。社会においても、コロナ一色であった空気が変わり、多様な社会問題についての関心がよみがえりました。当センターではこれをうけて、各種の研究会・講演会や社会貢献事業を徐々に再開いたしました。

2021年度は、感染対策のための規制が残る中で、前年度にも増して、オンラインの企画に力を入れました。なかでも、当センター主催の連続講演会「マイノリティはなぜ『今』声をあげるのか：「分断の時代」におけるマイノリティ政策を展望する」は、多数の皆様のご協力、ご参加をいただき、意義深い企画になったと考えております。当センターは、従来、対外的情報発信に力を入れてきましたが、地方都市に立地する本センターにおいて、講師の招聘や聴衆へのアウトリーチには、大きな制約を感じてきました。2021年度以来のオンラインのイベントの経験を通じて、最新の通信技術によって、これらの制約を比較的容易に克服できることを実感しました。他方で、オンライン・イベントには、情報の発信は容易であっても、その匿名性のゆえに、参加者同士が濃密な議論を行う上で制約があることも否めません。オンライン・イベントのもつこれらの長所・短所の理解が深まったことは、2021年度の大きな収穫でした。今後当センターは、オンラインと、対面のネットワークを適切に組み合わせつつ、教育・研究活動を展開してゆきたいと思っております。

今後も当センターの活動に、皆様のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2022年3月 高等法政教育研究センター長 辻 康夫